

特定非営利活動法人
日本ボランティアコーディネーター協会
2007年度 事業計画

はじめに ～ 2007年度事業計画のポイント

本協会は2001年1月の設立以来、全国ボランティアコーディネーター研究集会の内容の充実と規模の拡大、分野や領域をこえたボランティアコーディネーターのためのガイドラインとなる「ボランティアコーディネーター基本指針」の作成、地域レベルでの会員ネットワークであるC o C oサロン開催の支援、基礎研修プログラムの開発、専任事務局長の確保、固有事務所の開設など、ボランティアコーディネーターの分野や領域を越えたネットワークづくり、専門性の向上を目指して各種事業の推進や組織強化に努めてきた。

2005年度には、中期ビジョンの検討をする中で2006年度からの3カ年にわたる取り組みの計画をたて、具体的なアクションとして下記の3点を挙げた。

ボランティアコーディネーターの専門性認定の仕組みづくりに着手し、2008年度中に完成させる。

あらゆる組織・場面におけるボランティアコーディネーションの質の向上に向けた事業を新たに実施する。

基本指針を軸としたボランティアコーディネーションについての理解促進キャンペーンを実施する。

この計画の2年目として2007年度は、ボランティアコーディネーターの社会的認知や専門職としての確立にむけて「ボランティアコーディネーターの専門性認定のためのしくみづくり」に重点を置いた事業展開を行う。有識者などで構成する専門性研究委員会を中心に、ボランティアコーディネーターの専門性の明文化、認定のプロセスやしくみづくりを2008年度中の完成にむけて取り組む。

また、これと同時にボランティアコーディネーション機能を担う人の層が拡大しているという社会的な状況に対応するために、基礎研修の実施体制強化のための標準テキストの作成に取り組む。また2006年度に作成した基本指針ブックレット、リコグニションカードなどのツールを活用してボランティアコーディネーションについての理解促進キャンペーンなどを展開しながら“ボランティアコーディネーションの理解・普及”を図っていききたい。

これらの状況をふまえ、2007年度は以下の4つの重点課題を中心に事業展開および組織運営を進めていくこととする。

1. 多様な領域で活動するボランティアコーディネーターのネットワークの確立

多様な担い手の実態把握

専門性研究委員会により多様な領域でのボランティアコーディネーションについて分析する。

会員サービスの充実

メールマガジン、メーリングリストなど、会員に対する情報提供をより一層充実する。

C o C oサロンの多様な展開

多様な分野、領域の会員が拡大する実態にあわせて、地域に加えて、分野、テーマ別のC o C oサロンの拡充に努める。

2. ボランティアコーディネーターの専門性の向上にむけた取り組み

ボランティアコーディネーターの専門性についての明文化

専門性研究委員会により作成する。

研修の充実

1. 基礎（入門）研修標準テキストの作成
2. 基礎（各論）研修の実施
3. ステップアップ研修の実施

「ボランティアコーディネーター基本指針」の普及

ブックレットを活用し、研修、講師派遣などでの普及をはかる。

3. ボランティアコーディネーターの専門職としての社会的認知度を高めるための取り組み

ボランティアコーディネーターの専門性認定のためのしくみづくり

専門性研究委員会により検討する。

ホームページの内容充実

ボランティアコーディネーターの社会的役割が認知されるようホームページのコンテンツを検討する。

キャンペーン戦略の検討

より効果的にボランティアコーディネーターの社会的認知度を高めるための戦略を検討する。

4. ボランティアコーディネーションの普及

あらゆる組織・場面におけるボランティアコーディネーションの質の向上

組織・機関に所属したボランティアコーディネーターに加えて、地域活動等の現場でボランティアコーディネーションを担う層や、関心を持つ層にむけた研修等を開発する。

ホームページの内容充実

一般にむけて、ボランティアコーディネーションの理解を向上する内容を充実する。

5. 事務局体制の充実

上記の4つの柱となる事業を実施するために事務局体制を充実する。

事務局スタッフの強化

事務を継続的に担うためアルバイトスタッフの勤務日数を増やす。

組織を継続的、安定的に運営していくための財源の開発

ミッションに沿った趣旨の委託事業の受託や、調査研究および開発的な研修実施などに対して助成金を積極的に申請する。

<事業計画と組織>

1. 事業の推進

(1) 情報の収集及び提供活動の推進

ニュースレターの発行

『Co Co Net』の発行(年3回 発行月:4月、8月、12月)

メールマガジン(会員向け)の発行(月1回)

JVCAリーフレットの改訂

ホームページの充実

- ・タスクチームを編成しデザインのリニューアルに着手する
- ・会員限定ページの創設

ボランティアコーディネーションに関する情報収集

- ・データベースのホームページ上での公開
- ・資料及び文献の収集、整理

雑誌・新聞などへの寄稿 など

(2) 全国ボランティアコーディネーター研究集会の開催

「全国ボランティアコーディネーター研究集会2007」(横浜集会)の開催および評価

「全国ボランティアコーディネーター研究集会2008」(関西地区開催予定)の企画・準備

(3) 研修の開催および研修企画の支援

各種研修セミナーの開催

- ・基礎(入門)研修(関東地区4回、関西地区4回)
- ・基礎(各論)研修(関東、関西 計3回)
- ・ステップアップ研修(東京)1回
- ・ボランティアコーディネーターのためのファシリテーション研修(東京)1回

基礎(入門)研修標準テキスト作成

2006年度に構築した基礎研修コンテンツをもとに標準テキストの作成を行う

講座等の企画の支援と講師等の派遣・紹介

- ・地域活動等の場面でのボランティアコーディネーションの担い手にむけた研修メニューを開発する。

(4) 相談への対応

- ・会員メーリングリストによる会員相互の相談助言活動を促進する。
- ・頻度の高い問合せについて、ホームページに掲載する。

(5) 調査・研究活動の推進

ボランティアコーディネーター専門性研究委員会の開催

専門性の明文化、研修体系の作成、認定のしくみづくりを検討する

『ボランティアコーディネーター白書（2007～2008）』の編集に協力する

研修参加者を中心としたボランティアコーディネーターの実態を把握する

(6) ネットワーク推進事業

CoCoサロン

会員サービスの一環としてCoCo サロン開催を支援し、会員相互の交流を深める。

開催地域ならびに分野別開催の一層の拡大を図る。

開催にあたっては、理事会ならびに運営委員会の開催との連動を図ることを目指す。

インターナショナルボランティアマネジメントセミナー（主催： ）に企画協力する。

（2007年8月に米国ハワイ州にて開催予定）

メーリングリストの運用

自主学習会の支援

国内外の関係団体との連携

(7) アドボカシー活動の展開

社会情勢に応じたアドボカシー活動を展開する。

(8) ボランティアコーディネーターの実践を助けるツールの開発と活用

リコグニションカードの活用

ボランティアセンター自己診断の活用

新たなツールづくりの検討

2. 組織の運営と財政の強化

(1) 通常総会 2007年3月4日、横浜にて開催する。

(2) 理事会 3回開催(2月、7月、12月の予定)

運営体制を一層強化するために役員の再任制限の緩和を図る。

(3) 委員会

運営委員会 月1回、12回開催する。

委員会の開催

各種事業の進行管理を徹底し、事業推進と組織運営への会員参加を進めるため、理事、運営委員、一般会員の参加で以下の委員会を推進する。

- 広報委員会
- 研修開発委員会
- J V C C 企画委員会
- 組織財政委員会

プロジェクトチームの運営

各種委員会の他に、必要に応じて各種プロジェクトチームを構成し、事業の進行を図る。

(4) 会員拡大および会員サービスの充実

会員拡大に関する取り組み(正会員の拡大)

多様な分野においてボランティアコーディネーターの認知度を全国的に高め、JVCAの意思決定の場における現場からのコミットを拡大し、会員組織としての組織構成を強化するために、2009年度までの3カ年計画で個人正会員を500人まで増やしていくことを目指す。なお、団体会員制度の創設については、そのニーズ、メリットの確認ができるまで当面凍結する。

・2006年度会員数313人 2007年度目標10%増370人

会員サービスの見直しとサービスの充実

会員のニーズを的確に把握し、会員がJVCAにコミットする機会拡大とJVCAをより身近な存在として感じられるサービスとして、CoCoサロンを主軸とした地域や分野における会員相互の意見・情報交換とボランティアコーディネーションの普及・啓発の場づくりを拡充する。

(5) 事務局運営の充実

事務局アルバイトスタッフの強化

事務局会議の開催(月1回)

(6) 財源の確保と財政運営

会費収入の拡大

会員特典(JVCC・セミナー参加費割引など)を積極的に周知し、会員の勧誘を図る。

事業収益の拡大

その他財源の拡大(助成金、委託事業など)